

関連事項

① 清水南山の帝室技芸員任命と『金工研鑽録』

昭和九年十二月、彫金教授清水南山が橋本閑雪、松林桂月、和田英作、岡田三郎助、藤島武二、山崎朝雲、香取秀真、板谷波山らとともに帝室技芸員に任命された。南山は本校で加納夏雄、海野勝珉に彫金を学んで大正八年以後母校教員をつとめていた。若い頃の研鑽振りについては正木直彦が『回顧七十年』の「法隆寺と清水亀藏」に書いている。

帝室技芸員任命の翌年には、南山は帝国芸術院会員にも任命された。同じ頃、彫金部生徒に講義録『金工研鑽録』が配布された。本校では実技の教官が講義録を遺すことは少なかったため、これは珍しい例の一つと言える。序文には次のように記されている。

本書ハ清水龜藏先生御秘藏ノ金工ニ関スル記録ノ寫本ニシテ、斯道ノ所謂秘傳ヲ詳カ〔ニ〕セリ。

先生カネテヨリ原記録ノ獨有ヲ屑シトセラレズ、且、之ガ世ニ埋ルヲ憂ヘテシ遂ニ今回、我等學生ニ貸與サレ廣ク其ノ惠ヲ分タル、ト共ニ、永ク後世ニ傳ヘラレントス。我等ハ茲ニ大ナル感激ト感謝トヲ以テ寫本六十部ヲ作成セリ。然ルニ原記録ハ断片的ニ記述セラレシニヨリ、之ヲ系統的ニセント欲シタルニ、他面、原文ヲ其ノ儘記載セルタメ、文章ノ連結等甚ダ當ヲ得ズ。幾クバ讀者ノ此ノ點ヲ諒察セラレシコトヲ請フ。

本書ノ成ルニ當リ清水先生ニ謹ミテ謝意ヲ表スルト共ニ、學校事務室及飯田正美君ヨリ印刷器具ヲ借用シ多大ノ便宜ヲ得タルヲ以

テ深謝スル次第ナリ。昭和八年夏

本書はB5判、七十四頁。謄写版印刷である。第一編「合金法」(第一章「金工ニテ多ク使用セラル、合金」、第二章「鑲」、第二編「着色法」(第一章「彫金ノ着色法」、第二章「鑄金ノ着色法」、第三章「腐蝕法及其ノ他」)から成る。

② 西洋美術品の寄贈、石膏室

前年におけるラグーザの遺作に引き続いて昭和九年にも西洋美術品の寄贈があった。左記は『校友会会報』第三号所載「文庫彙報」に記されているその作品名等であるが、「」は『東京芸術大学芸術資料館蔵品目録 陶磁』の記述を示す。

コンスタン・ムニエ筆「炭坑夫の伴」 油画一点

石田信之助寄贈

ジョン・エス・サージェント筆木炭画三枚

サージェント家財産管理人寄贈

クロード・ミッシェル作「春夏秋冬浮彫」石膏複製 四点

パリ日仏協会寄贈

セーヴル窯花瓶、壺(藍地金彩桜花文大壺、蓋付印刻文白磁大壺)

各一個 パリ日仏協会(アンドレ・オノラ)寄贈

同 兀鷹(禿鷹) エー・エル・バシユレ作 一個

同(同)寄贈

同 フローラ胸像(少女胸像) ジー・ペー・カルポー作 一個